

富山県のアーティストによる

「猫」をテーマにした作品展

参加アーティスト／清河北斗(造形) 高野裕輔(写真) 玉分昭光(版画) 野村瑞穂(陶芸) 畑中優(油彩画) 広田郁世(日本画)

セレネ美術館 ギャラリー企画展



2021

6

土


日

5 → 27

9:00~17:00

セレネ美術館ギャラリー

入場無料

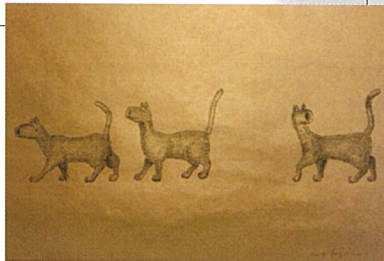
ワークショップ	ネコをかこう	短時間で銅版画に挑戦!	
6/12 土	午前の部 10:00~12:00 午後の部 13:00~15:00	講師/玉分昭光(版画家) 参加費/¥2,000 定員/各15名(小学生以下は保護者同伴) 参加申込/電話もしくは申込フォーム(QR) ※当日支払	

主催 セレネ美術館

後援 北日本新聞社・北日本放送・富山テレビ放送・チューリップテレビ・FMとやま・新川コミュニティ放送・みらーれTV
黒部市教育委員会・黒部市・NHK 富山放送局

を
描
い
て

猫は生来、何かしら霊的な感覚を持った動物だと思ひ込みも含めて、そう感じて参りました。進化における生物の様々な形態に思いを馳せる時、猫もまたその敏感な感性で何を見てきたのか。どんな物語があり、どう生きて何を残すのか。そんなこと確認する方法は無いのだけれど、その目に見えない背景に、悠久の営みや儂さ、またロマンを感じるのです。



清
河
北
斗

1974年、富山県黒部市生まれ。東京芸術専門学校(TSA)卒業。生体的フォルムのシリーズ制作を経て、近年は主に大型の作品を手掛けるなど、機械と生身が融合した世界観や、生命進化の過去から未来へのプロセスをテーマに制作を進める。ジャパンエキスポ2011(パリ)、個展「仮様」(下山芸術の森発電所美術館)、舞台の上の美術館II「巨無と虚無」(オーパード・ホール)、アートフェア東京2018等。

造
形

猫は自由で気ままだ。とされているが、きっと本人たちにはそんな気はないのだと思う。ルーティンワークや、人間にかまったり、結構忙しいのだ。本当はいつも単独が良い。干渉されると、動きが鈍るのだろう。でも、自分はその社会にいるのだと安心するために繋がってはいたいのだ。などと妄想しながら撮影しました。



高
野
裕
輔

1985年、富山市生まれ。サンフランシスコ州立大学卒・経営学専攻。2011年、高野写真館の家業を継ぎ、写真始める。2014年、芸術写真始める。以降、年一回読茶会(ゲキシブ大茶会)にて写真作品展示。2017、2018年 fotofever 作品展示。2020年 ミュゼふくおかカメラ館にて個展。

写
真

猫を描くことがある。その名は「ゆうたろう」。ゆうたろうは、我が家にいた猫ででぶっとしてやわらかい。彼が私の布団の上で寝ているとついつい優しくなってしまう。私が緩やかな絵を描いてしまうのはゆうたろうのせいである。



玉
分
昭
光

1975年岐阜県生まれ。富山県入善町在住。00年富山大学大学院修了後タイ王立美術大学講師に。08年から2年間ブラジルで日本語、日本文化を教える。15年山本鼎版画大賞展優秀賞、18年台湾国際版画ピエンナーレ優秀賞/20年審査員特別賞、「contact」展(黒部市美術館)、19年バンコクトリエンナーレ版画素描展トリエンナーレ賞、中国グアングラン国際版画ピエンナーレ買上げ。他世界各国から展示招待される。

版
画

このごろたまに見かけるハチワレがいる。野良なのか飼い猫なのかわからないが丸々としていて、少しふてぶてしい。私と目が合うとさーっと逃げてしまう。ふと見ると生垣の陰からじつとこちらを見ていたり。ある時工房の窓の下で寛いでいたので、こっそり写真を撮ったらすごく恐い顔で睨まれた。そんなふれあいが楽しいと思っている。



野
村
瑞
穂

1966年、富山県上市町生まれ。1992年、京都市立芸術大学大学院陶磁器専攻、修了。1995年より、富山県上市町に工房をもつ。「美より日よりTOYAMA」(2012,2015,2019・富山市民プラザ)、富山市陶芸館(2015)、至高の精神展(2017・砺波市美術館)、穂上画廊(2017,2019・入善町)、ピエンナーレTOYAMA(2017,2019・富山県美術館)、「この世界で生きる、日々のかたち」展(2019・黒部市美術館)

陶
芸

テレビがあまり普及していなかった頃、Sくんちにはそれがあつた。月曜日ともなると、朝早くからSくんちにお邪魔して、少年番組「ナショナルキッド」を観てもらおうことがなかなば習慣になっていた。牛乳と煎餅をいただきながら小一時間を過ごすのであつたが、テレビの上には白い猫がいつも鎮座していた。自分の家とは全く違う、何かこう都会的というか、ハイカラ感が漂っていた記憶がある。当時、家の中で猫を飼う、とはその家庭の懐事情が然らしむものであつたような気がしている。六十数年も前の話である。

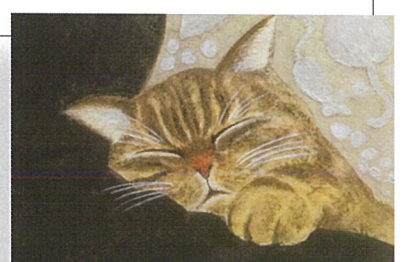


畑
中
優

行動美術協会会員。銀座大賞展 大賞(1994)、多摩秀作美術展 大賞(1996)、海の大賞展 大賞(1997)、小磯良平大賞展 優秀賞(2007)

油
彩
画

猫と暮らしたことはない。でもいつも近くに猫はたくさんいた。決して近づいてこない野良猫たちが、隣の空き地に住んでいた。そして、ものすごく猫好きな人が近くに何人もいた。そのせいか、猫に私は何か一線を置いていた。無論描く対象ではなかった。そんな猫たちを垣間見た、いくつかの風景を思い出している。



広
田
郁
世

大阪芸術大学日本画専攻科修了。平成元年度文化庁芸術家国内研修員。創画展、パンリアル展、座の会展などに出品。とやま現代作家シリーズ(富山県立近代美術館)、至高の精神展(2010・砺波市美術館)、第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展、ピエンナーレTOYAMAほか。TST番組「となみ野音がたり」墨絵、出世魚のぶりかま(蒲鋒/企画・サンエツ)デザインなど。

日
本
画



黒部市宇奈月国際会館 セレネ
富山県黒部市宇奈月温泉6番地3

TEL 0765-62-2000

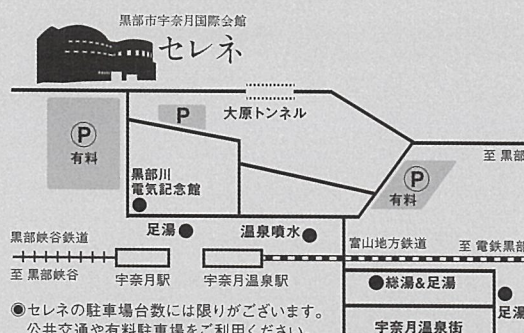
[9:00~17:00]

mail info_selene@unazuki.org

www.unazuki-selene.com

黒部市宇奈月国際会館

検索



お客様へ 新型コロナウイルス等の感染症拡大予防のため、以下についてお守りいただきますよう、お願い申し上げます。●会場内では人と間隔をあげ、大声での会話をお控えください。●館内ではマスク着用の上、こまめな手指の消毒をお願いいたします。●咳や発熱の症状がみられる方は、ご来場をお控えください。●ご入館の際「入館者チェックシート」にお名前・ご連絡先の記入をお願いしております。●感染症拡大防止のため、イベント・公演が中止・変更になる場合がございます。最新情報はHPをご覧ください。